



辻川だより

第15号 [2010 秋号] 平成22年9月18日発行

発行 辻川区 [辻川公民館]
〒679-2204 福崎町西田原 1227
TEL 0790-22-5763
ホームページ <http://www10.plala.or.jp/tujukawa/>



キッズダンス&ゆうゆうバンド



特に今年の界隈展は、地元の方の作品をできるだけ多く出品いただけるよう心掛けました。また、民俗学のタベにおいては、各種団体のみなさまには大変協力をいただき、たのしい一日が過ぎました。改めて御礼を申し上げます。

今後、地元地域の住民の多くの皆さまにもっと楽しんでいただける内容にしたいと思っていますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



辻川界隈展・民俗学のタベを終えて

区長 釜坂道弘

今年は、梅雨があげた途端に毎日記録的な暑さが続きました。

こんな中で、今年も界隈展と民俗学のタベが、多くの方々の協力で盛大に開催が出来ました事を大変うれしく思います。

暑い中、準備に片付けにと大変な行事ではありませんが、辻川区にとっては一番大事な行事と言っても過言ではないでしょう。それは、「柳田國男」の生まれ育った「辻川」にしか出来ない行事であるからです。

協議員会は今

7・8月の協議員会での報告・検討内容を一部紹介いたします。

- 辻川界隈展・民俗学のタベの詳細打ち合わせ
- 今年は敬老の日の催事を行わない。73歳以上の対象者131名にお祝い金配付
- 鈴の森神社西の旧バレーコート治水工事。7月中には完成し8月7日の民俗学のタベでは駐車場として利用するも、入り口坂道の表面水の処理等、その運用も含めさらに検討。
- 屋台倉庫周辺の改修について → 8月16日に完成

当面の予定

- 9月26日 道普請少雨決行
- 10月9・10日 秋祭り
- 11月 辻川山周辺整備事業
フラワーポット植替
- 28日 人権・青少年健全育成研修 行政懇談会
- 12月 隣保長・各種団体会議

お知らせ

■15隣保の牛尾要次さんが30年近く撮り続けてこられた辻川界隈のビデオ記録が借りできます。ご希望の方は牛尾さんまでご連絡ください。ちなみに

その中の花嫁行列は7月4日、姫路キャスバホールでのビデオフェスティバルで上映され、先の界隈展でも「もちむぎのやかた」で上映されました。ご覧になりましたか。

■8月21日(土)

辻川鬼太鼓、姫路市青葉台へ340戸の青葉台(須加院)の夏まつりで熱演。自治会館横の小さな会場は暑気と熱気の中に。

祭礼行事の報告

◇7月11日(日) 夏えびす

あいにくの天候でしたが、宮当番の皆さんによって滞りなく準備していただき、お祭りしました。

《訂正とお詫び》



辻川だよりの133号で「冬えびすでも福引が…」は、夏えびすの誤りでした。記してお詫び申し上げます。(田崎)

◇7月18日(日) 夏まつり

井ノ口の役員さん7名を含め40余名の参拜の下、お祭りさせていただきました。「10隣保 佐伯」

事業報告

◇7月3日(土)

隣保長・各種団体役員会議

- 7・9月の行事・事業確認
- 辻川界隈展・民俗学のタベの詳細説明・依頼

- 自治会對抗親善ソフトボール大会参加(31地区)と各隣保からの選手推薦について(体育普及員)
- 国勢調査員として小谷喜多男さん(隣保)と松岡博子(隣保)さん、福崎町女性委員として松岡直美さん(隣保)今年度女性部代表)を辻川区として推薦
- 秋祭りの法被(大人・子供)と提灯(御神灯)の申し込みについて(青年団)

玉垣損傷状況調査

◇7月18日(日)

最近、鈴の森神社の玉垣に損傷が目立つため、その状況調査を協議員で行った。明治36年の拝殿周辺の玉垣建立以降、損傷が著しい時や特別な祭事時に何度か奉納されてきた玉垣は、長らく加西市の長あき石や高室石などの流紋岩が使われてきた。流紋岩は切り出しやすく、加工しやすく、しかも軽いため運搬もしやすいのだが、それだけ風化には弱くもろい。昔から石棺や墓石、井戸枠等にも用いられてきたが、最近では中国産の花こう岩(御影石)に取って代わられている。一昔前までは地元調達しかなかった。ちなみに、大正9年の拝殿改築時には玉垣のみならず、門柱

(大玉垣)が寄進されている。例えば、正面参道入り口の柳田國男や松岡鼎のそれである。ところで、玉垣に石を使い出したのはここ百数十年のことか？

◆8月1日(日)クリーン作戦
◆8月1日～8月8日

辻川界隈展

今年の特徴は区内13名の方々の作品(俳句・能面・陶芸・書画・手芸・写真・ビデオ)が福富写真店から東の旧街道筋と大庄屋三木家・もちむぎのやかたに展示・上映されたこと。来年はさらに多くの作品が出品されることを願っている。

一方、七夕飾りはほとんどの短冊が飛び散ることもなく、また飾りにも各隣保の工夫が見られたのだが、竹の質が悪くたびたび折れてしまった。とはいえず方には、夕涼みを兼ねての見物客の姿が結構目についた。

一昨年から子ども会による「街角キャンパス」がなくなり、今年は作品管理の観点から展示場所をさらに限定することになった。界隈展の内容や期間中の作品管理方法等についても、さらに様変わりが必要かもしれない。



鬼太鼓も餅食いも子供元気



◆8月7日(土) 民俗学の夕べ

今年で14回目の民俗学の夕べ。どここのイベント案内よりも

見事な辻川商工部会による新聞折り込みから始まる辻川区の一大行事として定着してきた。近隣の地区や里帰りの観客を集め、オープンングから約300名が狭い境内に、猿回しの頃には500名近い観客で境内は立錐の余地なし。今年も中学生や高校生

のバンドも登場し、世代の途切れなく文字通り若者男女が楽しんだ。各種団体の夜店出店協力等、裏方の皆さんに支えられてのイベントだが、来年は辻川山公園駐車場から「七夕通り」にかけての交通整理も必須。財布が落とし主に戻るといった話題ならではのほのほとした話題もおまけについた夕べだった。

◆8月18～21日 自治会対抗 親善ソフトボール大会

第3位 見事！

一回戦 〇 1-1-3 西大貫
二回戦 〇 1-1-5 福田
三回戦 〇 1-4-4 西光寺
準決勝 ● 6-7 大門

駒田監督・岡野部長のもと応援40人の声援を背に強豪を連破。このチーム力は秋祭りへ。

☆ 神幸渡御日程 (御輿がお旅所へ)

10日 9:30 祭典斎行 (熊野神社)
10:30 神輿渡御発 11:40 岩尾神社発
10:50 岩尾神社着 12:00 熊野神社着

鈴の森神社の玉垣にみる昔の辻川の賑わい

4 横光利一の父 顕利と辻川

十一隣保の伊藤源五さん(父故伊藤源二郎さんからの伝聞)によると、顕利は注3西光寺野疏水路工事(工期は大正元(1912)年から大正三年十月頃まで)の、特にトンネル(隧道)掘りに携わっていたそとである。八隣保の松岡秀隆さんによると、「横光利一は「旅愁」の中で「父」に「あのころはもうトンネルの設計をしていたよ。難工事で人が失敗すると、いつもその後をわしがやらされたもんだな。」と語らせているそとだ。「トンネル掘りの名人」としてその腕を見込まれ、国内はもとより朝鮮にまで足を伸ばしていたようである。

☆ 宮入順と宮中での位置

辻川休憩場所

いざ！ 本殿 秋祭り

《東側》

1. 田尻
2. 大門
3. 大吉
4. 目谷
5. 長治
6. 加井
7. 谷ノ口
8. 中島
9. 亀坪

《西側》

4. 八反田
6. 西野
8. 辻川
10. 北野
12. 西光寺

青年団からのお知らせ

☆ 秋季例大祭日程
9日 宵宮 10日 本宮
☆ 秋祭りまでの予定
乗子子練習開始：9月6日
屋台倉での練習：9月21日
肩合わせ：9月26日午後2時
10月2日午後7時30分
☆ 熊野神社宮入等の予定
宮入前木方会議 午後1時
宮入開始 午後1時20分
昼休憩 午後2時50分
宮出開始 午後4時
宮出完了 午後5時20分
〔正午～午後6時：田尻交差点～辻川交差点全面通行止〕

顕利がいつ頃まで辻川に住んでいたかについては定かではないが、松岡さんによると「大正四年には顕利夫婦が京都山科に新居を構えたことが判っているので、長く見積もっても大正四年の春頃まで」だろうとのこと。辻川に居住したのは大正二年一月から工事完成の大正三年十月までの1年9ヶ月程度かもしれない。

玉垣の奉納もこの時期と推測される。伊藤さん宅の西隣にあった横光宅(増田組出張所も兼ねていたか?)跡地には今も当時の礎石が残されている。礎石の下は一般に栗石を詰めたり、たたきの場合が多いが、顕利(増田組)は当時では珍しいコンクリートを基礎に打っている。

なお、1922年、再び朝鮮に渡った顕利は注4京城で亡くなった。



コンクリートに付着した礎石 一部黒色は濡れているため

改称。朝鮮総督府が置かれた。

注3 昨年、西光寺野疏水路が経済産業省に「近代化産業遺産」として認定された。市川町瀬加の岡部川から引水し、長池までの約88km。この間に隧道8ヶ所、水路橋5ヶ所がある。

注4 日本は、顕利が行き来した韓国を1910年に併合し朝鮮と改めた。その侵略の足掛かりは1875年頃に始まる。日清戦争(1894年)、日露戦争(1904年)を経て、その支配は第2次世界大戦終結(1945年)まで続いた。

注5 日本支配期のソウルの称。李朝時代の王都漢城を、1910年の韓国併合により改称。朝鮮総督府が置かれた。